

新会頭に河越氏

新副会頭 藤井氏、山本氏選任

所選 議改 商員 倉役

倉吉商工会議所は24日、臨時議員総会を開き、任期満了に伴う役員改選で新会頭に前副会頭の河越行夫氏(77)＝宝製菓代表取締役会長＝を選んだ。副会頭には、藤井武親氏(66)＝ひまわり企画社長＝、山本敬氏(56)＝バルコス社長＝を選任し、大田英二氏(71)＝チュウブ会長＝を再任。専務理事に元倉吉市職員の岩本善文氏(65)を選んだ。任期は11月1日から3年間。河越氏は「人口が増えるまち倉吉を実現できるように関係機関と連携を強化していく」と決意を語った。(本高屋修)



倉吉市山根の倉吉シティで満場一致で選任。河越氏はホテルで行われた議員総会では2010年から副会頭を



藤井武親氏



山本敬氏

新会頭就任に向け、抱負を語る河越氏。24日、倉吉市山根の倉吉シティホテル

務めており、「地域をけん引する商議所を目指す。倉吉ならではの強みを生かした『尖った』取り組みで地

域の誇りと利益の向上につなげていく」と抱負を語った。4期12年にわたって会頭を務めた倉都祥行氏(73)は「厳しい時代ではあったが行政と連携して商議所としての役割は果たせた」と感謝し、新体制に期待を込めた。副会頭を2期務めた笠見和則氏(68)＝倉吉信用金

岩本氏は1983年に倉吉市役所入りし、企画振興部長などを歴任。2018年に退職後は市商工観光課専門員。今年9月末退職。

「尖った取り組み」でけん引 人口増へ強い意欲

【解説】倉吉商工会議所の新役員体制が決まった。会頭、副会頭二人、専務理事が総替りとなり、臨時議員総会の就任あいさつで新会頭の河越行夫氏は「人口の増えるまち倉吉」の実現に向け、「倉吉市ならではの強みを生かした人口増につながる全国随一の『尖っ

た取り組みを進める」と意欲を見せており、強いリーダーシップと手腕に期待がかかる。アフターコロナに向けた国の全国旅行支援などによる観光業にも追い風が吹き始めているが、同商議所の会員企業は中小零細企業や個人事業主が多い。人口増

を掲げる前提として、まずは会員企業が元気になることが必至だ。持続的な地域の実現には基幹産業や地元資本企業の成長は欠かせない。観光客から「外貨」を獲得する仕組みの構築は、鳥取県観光連盟会長などを務めてきた河越氏の経験や熱意をもつて地域ぐるみで進む取り組みに注目が集まる。一方で、倉吉市では2年半後の県立美術館の開館を控え、中心市街地の活性化や関金温泉の再生など課題も山積。各部会や部会間の連携を図り、期待され、地域をけん引する商議所を実現するために、倉吉市と本音の協議を行い、若返りを図った副会頭とともに、変革の旗振り役として「新しい中部経済界の姿」を見せてほしい。(本高屋修)